

## 第三次環境中期計画・08年度計画

環境分野では京都議定書の目標達成のためのCO<sub>2</sub>排出抑制を促す施策や環境関連法規制が強化され、環境の取り組みはまさに企業の社会的責務となっています。また、生協の自主行動計画が政府による厳格なフォローアップの対象となり、経営課題と同じく環境政策も計画的に推進していくことが求められます。

一方で、このように社会全体で環境問題への関心が高まるなか、NPO法人など市民レベルの取り組みも活発化、多様化するとともに、消費者の関心も高まるものと思われれます。

こうした環境を取り巻く社会情勢をふまえ、2008～10年の3カ年を期間に、第三次環境中期計画を策定しました。中期計画と2008年度計画は以下のとおりです。

I. 組合員や社会から評価される環境経営に		
事業の環境対応が確実にできることが優良な事業者としての必要条件となり、逆に対応できない事業者は社会的な評価が得られません。事業面での環境対応を事業体として当然の責務と認識し、確実に対応し組合員や社会からその存在意義を継続して認められる基盤を強化します。		
重点課題項目	中期計画でめざす到達点	2008年度計画
① CO <sub>2</sub> の排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2010年度までに、以下のCO<sub>2</sub>排出量削減をめざす。 コープこうべ: 115,910t (02年度比 95.5%) グループ: 126,005t (02年度比 97.0%)</li> <li>○ 第四次環境中期計画に向け、さらにCO<sub>2</sub>削減を達成する計画づくりをすすめる。</li> </ul>	コープこうべ: 117,658t (02年度比 97.0%) グループ: 127,749t (02年度比 98.3%) ・ 毎年次期3カ年の削減計画を策定 ・ 省エネ設備への計画的切り替え ・ 運用面のマネジメント強化 ・ さらなるCO <sub>2</sub> 削減方法の研究
② 食品廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 改正食品リサイクル法を順守する。</li> <li>○ 発生抑制を重点対策とし、食品廃棄物削減をさらにすすめる。</li> <li>○ 中長期の対応として、新たな食品リサイクルの仕組みを研究、検討。</li> </ul>	再生利用実施率(発生抑制+削減): 67% ・ 食品廃棄物の発生抑制の継続・強化 ・ 土づくりセンターの日曜日回収実施 ・ リサイクル、減量などの調査研究
③ 商品の環境配慮の前進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 容器包装のさらなる削減に実験的に取り組み、拡大をはかる。</li> <li>○ 新たな環境配慮商品の開発と普及に取り組む。</li> <li>○ 組合員による環境配慮商品への認知を高め、利用結集をはかる。</li> </ul>	① NPO法人ごみじゃばんやメーカー各社との共同研究による容器包装削減。 ② エコフィード事業との連携について調査研究。 ③ 新たな環境配慮商品の開発について検討し、推進。 ④ 環境配慮商品の基準を日本生協連基準と整合をはかりながら見直す。 ⑤ 「コープみんなでエコ! 2008」キャンペーンを通じて環境配慮商品を訴求し、普及をはかる。

II. 地域とともに持続可能な社会を構築する		
生協運動の根底にある「地域社会への貢献」を具現化するためのこれまでのさまざまな取り組み、実績や生まれてきた芽をさらにブラッシュアップし、くらしや社会への貢献度を高めます。また、社会的な発信力や影響力を強めるために、これまでの活動の枠にとどまらず、行政やNPO法人などとの連携により持続可能な社会づくりに貢献します。		
重点課題項目	中期計画でめざす到達点	2008年度計画
④ 環境学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ レジ袋代金を活用した森林保全・体験学習活動の枠組みを確立する。</li> <li>○ エコファームを中心として、食育や子育てとも連携した環境学習機能を整備し、強化する。</li> </ul>	① G8環境大臣会合に合わせて開催する「コープみんなでエコ! 2008」を通じ、コープこうべの環境の取り組み全般をアピール。 ② レジ袋代金を活用した森林保全と活動内容の具体化と取り組みの開始。 ③ 漁協と連携した「虹の仲間ぞぶつくり」活動の定着。 ④ エコファーム活用に向けた準備。 ⑤ 環境基金の認定特定更新に向け、方向性見直しの検討をすすめる。
⑤ 環境配慮型ライフスタイルの定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ エコチェックなど、環境配慮に向けたくらしの見直し活動を定着させる。</li> <li>○ マイバッグ持参率9割を維持し、地域社会にも取り組みを広げる。</li> </ul>	① 地区の環境活動推進体制の到達点確認と活性化に向けた支援を継続。 ② エコチェック参加者数: 前年比 110%。 ③ マイバッグ持参率9割達成。 ④ コープこうべが店舗展開する県内全行政とのレジ袋削減協定の締結をめざし働きかけを継続。

## 2008年度目的・目標概要

コープこうべの著しい環境側面<sup>注)</sup>に対して、2008年度は以下のように各部門が目標設定して取り組みをすすめます。

方針	全体の目的	部署	環境側面	著しい	緊急	08年度目標
1-(1)	廃棄物の削減	コープ店・大型店	廃棄物の排出	○		廃棄物重量を07年度比5%削減 廃棄ロス率を0.9%削減
		コープミニ	廃棄物の排出	○		廃棄ロス率を07年度比3%削減
		食品工場	廃棄物の排出			ロス額(自己生産出荷あたり)を07年度比5.2%削減 生ゴミ量(自己生産出荷あたり)を1,210tに 07年度比4.5%削減 プラスチックゴミ量(自己生産出荷あたり)を07年度比2%削減
		商品検査センター	試薬の排出	○		薬物廃棄の適正処理
1-(1)	エネルギーの使用を削減しCO <sub>2</sub> の排出量を抑制する	KC・HC	車両燃料の使用・車両からの排気ガス	○		走行距離前年伸び率-訪問ポイント前年伸び率=▲1% 燃費を前年比5%アップ
		装い	車両燃料の使用・車両からの排気ガス	○		車両走行距離を07年度統合以降の平均走行距離から1%削減
		物流	車両燃料の使用・車両からの排気ガス	○		配送1t・kmあたりのエネルギー使用量を07年度比1%削減
		コープ店・大型店	電気の使用	○		電気の使用量を07年度比1%削減
		コープミニ	電気の使用	○		電気の使用量を07年度比1%削減(既存設備の事業所)
		KC・HC	電気の使用	○		電気の使用量を07年度比1%(鳴尾浜DCで5%)、 ガスの使用量1%削減
1-(2)		物流	電気・ガスの使用	○		電気の使用量を07年度比1%(鳴尾浜DCで5%)、 ガスの使用量1%削減
		食品工場 設備管理	燃料として都市ガスを使用 各設備の動力に電気を使用	○ ○		都市ガス及び電気使用量(自己生産出荷比)を07年度比1%削減
1-(2)	資源の節約	食品工場 豆腐	水の使用	○		水の使用量(自己生産出荷あたり)を07年度比2.6%削減
1-(3)	容器包装の削減	店舗	容器包装材の使用	○		持参率90%をめざす
		物流	内袋の消費	○		内袋使用量削減計画を立てる
		KC・HC	「内袋」「セット袋」の使用	○		組合員からの回収率23%
1-(1) (3)(4)	緊急事態の対応をすすめる	CL甲南	汚水の排出	○	○	油水分離槽からの汚水の排出防止
		KC西播磨	ガソリン・軽油の漏洩	○	○	給油スタンドからのガソリン、軽油の漏洩防止
		商品検査センター	アセチレンの漏洩	○	○	アセチレン漏洩防止
			汚水の排出	○	○	排水管理
		物流	薬品の紛失	○	○	薬品紛失防止
			燃料漏れ	○	○	車両からの燃料漏れ防止 軽油スタンドからの燃料漏れ防止
		食品工場	薬品、有機溶剤の食品への混入・紛失	○	○	劇毒物の商品への混入防止及び管理体制の強化
		食品工場	廃油の海上流出	○	○	漏洩防止、流出時の対応
		総合品質保証室 商品部	商品事故時の大量廃棄	○	○	商品事故未然防止のための管理システムの構築・運用
			薬品の違法使用 農薬等の違法使用	○	○	
1-(3) 2	環境法規制の順守	環境推進室 商品部	容器包装材の廃棄	○		容器包装リサイクル法の再商品化義務履行
		家電取扱事業所 環境推進室	家電品の使用後の廃棄	○		家電リサイクル法の義務履行
1-(5)	排水水質の向上	食品工場	汚水の排出			自主基準BOD200ppm以下の維持継続
2	悪臭の改善・防止	土づくりセンター	悪臭の発生	○		悪臭の改善・防止

注) 著しい環境側面: 環境側面とは環境に与える原因となるもの。そのなかで特に影響が大きいとコープこうべが評価したものを示す。